

日本の LCC3 社の実績 (2013 年度)  
～その5 収益性の指標～

(注) Peach と Vanilla は 3 月決算、Jetstar-J は 6 月決算 (旅客実績も同期間のもの)

収益性指標 ; Peach ; 搭乗率、客単価のダブルアップで黒字化した  
Vanilla ; 高コスト、低搭乗率で大幅赤字が続く  
Jetstar-J ; 低収入単価、高コストで大幅赤字だった (2012 年度)

(Peach) 搭乗率向上と、収入単価改善を同時達成して黒字化を達成した。  
搭乗率は「84%」(年間総平均)と、国内会社では突出した高さ。  
座席コストは上昇したが、旅客収入単価がそれより大幅に上昇して、  
B/E は「78%」に低下して搭乗率を下回った。  
(旅客<sup>キ</sup>当り収入) 8,490 → 9,610 円 +1,120 円 (+13%)  
(座席<sup>キ</sup>コスト) 7,090 → 7,980 円 + 450 円 (+ 6%)

・ 1 便当り収支 (2013 年度)

収入 154 万円に対し、費用 144 万円で、利益は 10 万円

Peach の運賃戦略は、「格安運賃」ではなく「お得感のある運賃」である。  
前者との間を埋めるのは運航品質と、おもてなしの親しみやすさといえる。  
この戦略が奏功し、事業基盤が安定したといえよう。

《図表 1》収益性指標の比較

		(3月決算)		差 率	(3月決算)		差 率	(6月決算)	
		Peach			Vanilla			Jetstar-J	
		2012	2013		2012	2013		2012	2013
営業収益	億円	144	306	( 213 )	35	66	( 190 )	128	
営業費用		153	286	( 186 )	69	123	( 179 )	219	
営業利益	億円	-10	20		-34	-57		-91	
座席数	万席	216	358	( 165 )	61	107	( 176 )	227	
旅客数	万人	170	300	( 177 )	39	72	( 185 )	164	
搭乗率	%	78	84	5	64	68	3	72	
旅客当り収入	円	8,480	10,200	1,720	8,840	9,100	260	7,830	
座席コスト	円	7,090	7,980	890	11,240	11,460	220	9,630	
B/E	%	84	78	-5	127	126	-1	123	
(平均距離)	km	992	1,051	( 106 )	1,167	1,239	( 106 )	1,099	
旅客 <sup>キ</sup> 当り収入	円/千 <sup>キ</sup>	8,490	9,610	1,120	7,650	7,120	-530	7,130	
座席 <sup>キ</sup> コスト	円/千 <sup>キ</sup>	7,150	7,600	450	9,630	9,250	-380	8,770	

(Vanilla) 搭乗率はやや向上したが、LCC としては依然低レベル。

座席コストはやや低下したとはいえ依然高く、費用が収入を大きく上回る。このため仮に満席にしても赤字という状態。

(搭乗率) 64 → 68 %

(旅客<sup>キ</sup>当り収入) 7,120 円 (座席<sup>キ</sup>コスト) 9,250 円

・ 1 便当り収支 (2013 年度)

収入 111 万円に対し、費用はその倍近い 206 万円で、赤字は▲96 万円

(Jetstar-J 2012 年度) 搭乗率は LCC としては不満な 72% だった。

収入単価が低く、座席コストは高い。このため大幅な赤字。

(搭乗率) 72 %

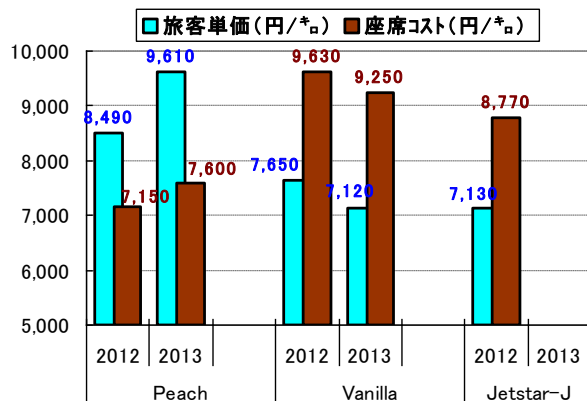
(旅客<sup>キ</sup>当り収入) 7,130 円、 (座席<sup>キ</sup>コスト) 8,770 円

・ 1 便当り収支 (2012 年度)

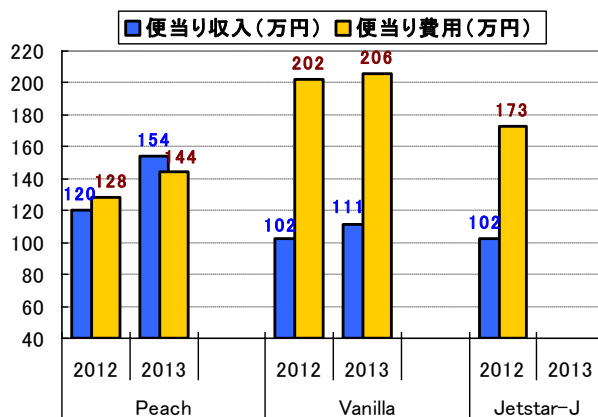
収入 102 万円に対し、費用は 173 万円で、赤字は▲72 万円

- ・ 2013 年度の展望； 搭乗率は向上し、収入単価も上昇しているため、便当り収入は増加する。問題は便当り費用がどうなったかである。

《図表 2》 旅客単価と座席コストの比較



《図表 3》 便当り収支の比較



5 回にわたる解説が、日本の LCC の現状理解に役立てたら幸いです。

以上